

### かいじゅうたちのいるところ



モーリス・センダック さく  
じんぐう てるお やく

## かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック さく

じんぐう てるお やく

富山房 1975年 1470円

1冊 24×26cm

ある晩、マックスはオオカミのぬいぐるみを着て大あばれ。とうとう怒ったお母さんから、夕ごはんぬきで寢室に放りこまれます。すると、寢室が森になり、波がうちよせ、船を運んできました。船に乗ったマックスが着いたところは“かいじゅうたちのいるところ”。かいじゅうの王さまになって、またまた大あばれするマックスですが、やがてお母さんが恋しくなり、船で寢室へ帰ってきます。そこには、ちゃんと温かい夕ごはんが置いてありました。見開きいっぱい3場面連続で、マックスとかいじゅうたちが“かいじゅうおどり”をするシーンが大迫力。マックスのような“小さないたずらかいじゅう”たちは、きっとこの絵本の世界にひきつけられることでしょう。



## かしこいビル



ウィリアム・ニコルソン さく

まつおか きょうこ やく

よしだ しんいち やく

ペンギン社 1982年 1050円

28ページ 19×25cm

ある日メリーは、汽車に乗っておばさんの家へ遊びに行くことになりました。ところが、あやまってお気に入りの人形ビルを、旅行トランクに入れ忘れたまま出発してしまいます。おいてきぼりにされたビルは、すぐに悲しみから立ち直り、全速力で走って汽車を追いかけ、無事メリーと駅で再会します。なんてかしこいビル！

作者ニコルソンが、娘メリーのために作った愛情あふれる絵本。テンポの速い展開ですが、物語の細部を絵がとてもよく伝えており、絵だけでも楽しめる作品です。

